

ひまわり



医療・介護・福祉・行政の多職種が連携し合い、住民の方が住み慣れた地域でその人らしく暮らし続けられるよう必要な体制づくりに取り組んでいます。

平成28年度第2回川薩地区在宅医療推進リーダー会議(7/6)



会議では、各団体の代表などが集まり、川薩地区共通の課題「医療連携シート」や「資源アンケート調査・ホームページバージョンアップ」について協議しました。

平成28年度第1回川薩地区在宅医療推進連絡協議会(8/3)



今年度より川薩地区在宅医療推進連絡協議会を川内市医師会と薩摩郡医師会が合同開催する事となり、第1回目の会議が8月3日に行われました。川薩保健所、薩摩川内市、さつま町、医師会、歯科医師会、薬剤師会、看護協会、訪問看護ステーション協議会、介護支援専門員協議会のそれぞれの代表にお集まり頂きました。平成28年度活動報告や平成29年度活動計画に関する協議を行いました。

平成28年度在宅医と後方支援病院医師との意見交換会(7/26) ～居宅介護支援事業所と訪問看護ステーションを交えて～



医師:12名、訪問看護師:4名、診療所看護師:4名、介護支援専門員:6名、地域包括:1名、行政:2名にご参加頂きました。まず、肝属郡医師会立病院坂上陽一氏に「平成28年度診療報酬改定における在宅医療及び訪問看護部門について」ご講演頂きました。次に①在宅医療は進んでいるか?②お互いの立場での要望は何か?③在宅医療連携シートの活用状況は?の3つのテーマで意見交換を行って頂きました。参加された医師から「在宅医療連携に関しては進んでいるが、在宅医療自体は進んでいない感じがします」「在宅医療に色々な方々が関わっているのは分かっていますので、何かあった時に、今までこういう体制がなかった頃に比べれば心強いのではないかと思います」他ご意見が聞かれました。訪問看護師からは「看取りを希望して帰って来られるよりは、悩みつつ帰って来られるケースが多いです。家族の方のフォローや経過の説明などで不安を軽減するよう努めています」また薩摩川内市の訪問看護師からは「筋ジスの方が先日お亡くなりになりましたが、事業所からご自宅まで片道1時間かかる所に週2回でしたが、家族の思いを受け止めて訪問させて頂いておりました」他にも色々なご意見を頂き、充実した意見交換会になりました。

訪問診療に同行させて頂きました(8/18)



優しい笑顔で患者さまの目線で話され患者様も笑顔で答えておられました。

裏面もお読み下さい

今回は、小規模多機能ホーム「よかよかん」へ訪問診療に行かれる林田内科の林田郷子先生に同行取材させて頂きました。当日は、2名の入所者の方の訪問をされましたが、グループホーム入所中の方も1名が、訪問診療を受けられているそうです。前日に臨時で往診をされたそうです。

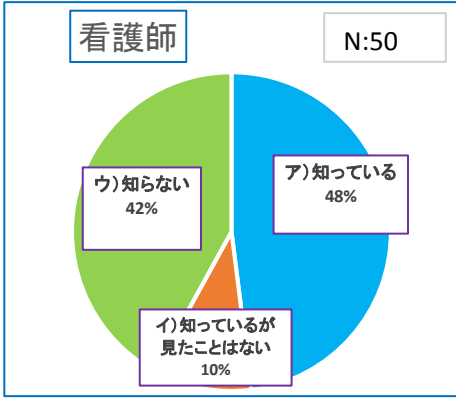
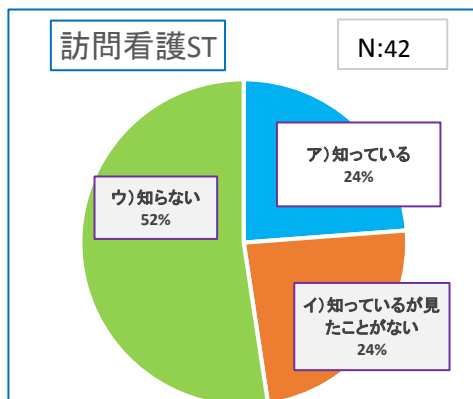
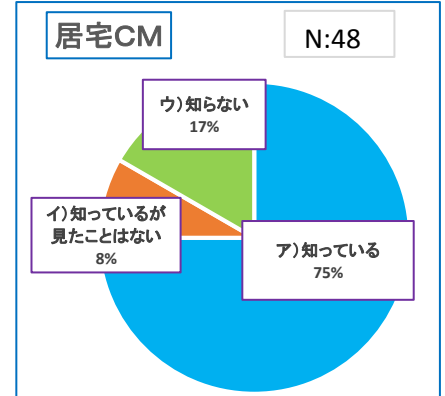
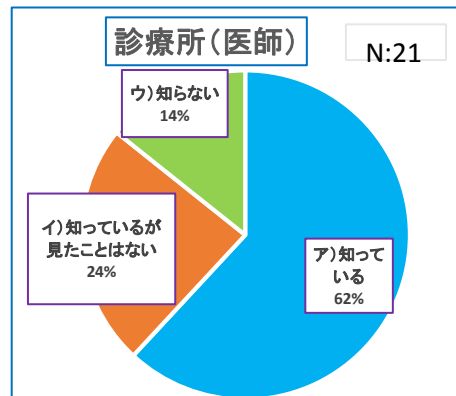
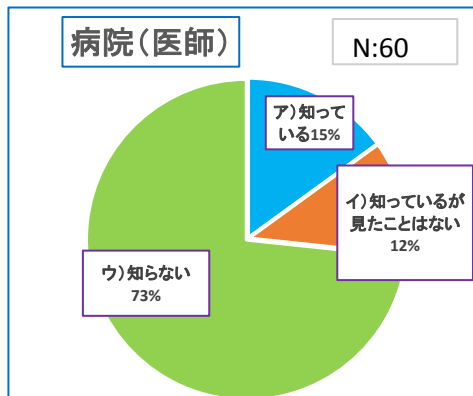
「在宅医療連携シートに関するアンケート調査」結果報告(6/1~6/30)

関係機関	対象者数	回答数
会員医師	36	25
川内市医師会立市民病院	61	25
済生会川内病院	50	50
市比野記念病院	20	10
クオラリハビリテーション病院	19	19
薩摩郡医師会病院	18	17
居宅介護支援事業所(16ヶ所)	44	37
さつま町地域包括支援センター	12	11
訪問看護ステーション(8ヶ所)	51	42
計	311	236

職種	対象者数	回収数
医師	116	81
看護師	66	50
連携室スタッフ	22	13
介護支援専門員	56	49
訪問看護師	51	34
その他	0	9
計	311	236

回答率は75.8%でした。後方支援病院としては、薩摩郡医師会管内は基より、川内市医師会立市民病院、済生会川内病院へもご協力頂きました。訪問看護ステーションは薩摩川内市を含め川薩地区すべての事業所に配布させて頂きました。たくさんの皆様のご協力有難うございました。

Q:在宅医療連携シートをご存じですか？



「在宅医療連携シートを受け取った事がある」とお答えいただいた方は全体で20名でした。医師2名、看護師5名、介護支援専門員10名、その他の職種4名という結果でした。様式の見直しについては、「このままで良い」が70名、「改善が必要」が19名という結果でした。

在宅患者様訪問:在宅での経管栄養点滴の実施方法についてのご紹介



在宅療養中のALS患者様T様は、上肢の筋力低下が見られる為、肩から上の動作が困難になって来られています。そこでT様が自分で安全にセットや実施が出来る方法を訪問看護師と一緒に考案されたそうです。物干しを鴨居に掛け、S字フック、ロープ、滑車を使って図のような装置を作られました。左側の写真のように低い位置で、経管栄養剤をS字フックに掛け、真ん中の写真のように片方のロープを引き高い位置まで揚げ、右の写真のように座椅子の足にもう片方のS字フックをひっかけます。身の回りにあるものを上手に使用されている事に驚きました。

在宅医療相談支援センターの場所がまだまだ知られていないようです。新館入口には表示されていますのでエレベーターで3階までお越しください。少人数の相談会ならいつでも使えます。皆様のご来訪をお待ちしております。直通電話(53-4711 FAX兼用)もご利用ください。(在宅医療相談支援センタースタッフ)

